

SICOG2025 参加報告

愛知医科大学 大須賀智子

2025年8月22-24日、シンガポールで開催された SICOG 2025 (13th Singapore International Congress of O&G 2025) に参加させていただきましたのでご報告申し上げます。

訪問場所（学会会場）

Park Royal on Beach Road, Singapore

講演内容

- セッション：Gynaecology Sinposium5: Reproductive Endocrinology & Infertility
- タイトル：Integrating Basic and Clinical Research to Optomise Outcome for POI/DOR
- 内容：

主に早発卵巣不全について、最新の定義などの一般論から、自身の研究内容につき、基礎研究から臨床研究へ展開した成果につき発表しました。

具体的には、POI 患者血清を用いたプロテオーム解析による、新規マーカーの同定、既存マーカーである AMH の応用として血中微量 AMH 値測定を用いた、POI 患者における卵胞発育周期予測の試み、また、一般若年女性における卵巣予備能低下例の抽出や、妊孕能に関する啓蒙についての取りくみを発表しました。特に、微量 AMH 測定については、測定法など、質問を多数いただきました。大会長でもあり、同じセッションの演者であった Dr. Huang Zhongwei からもポジティブなコメントいただきました。また、若年者への取り組みについては、座長の Dr. Suren Nair から、重要な取り組みであるとご評価いただきました。

参加を通じて得られた知見

一般演題も聴講したことで、SICOG での若手研究者活躍の様子を体感できました。

Social event を通じて、OGSS や各国のスピーカーと交流を持つことができました。

謝辞

本学会参加にあたり、ご支援・ご協力をいただいた関係各位に深く感謝申し上げます。

2025 年 SICOG 参加報告書

東京慈恵会医科大学産婦人科学講座 高橋健

期間

2025 年 8 月 22 日（木）～8 月 24 日（日）

訪問場所

Park Royal on Beach Road, Singapore (学会会場)

National University Health System (Pre-Congress Workshop 会場)

訪問内容

- 学会参加および口頭発表
- ディナーへの出席
- 海外演者との交流・情報交換
- National University Health System にて開催されたプレコンgresワークショップ（胎児診断・周産期管理に関するセッション）に参加し、最新の臨床技術と研究動向を学んだ

講演内容

演題名「**Development and Clinical Implementation of a Non-invasive Fetal RhD Genotyping Method Using Maternal Blood in Japan**」

- 我々の研究グループが開発・改良した、日本人の遺伝子型に対応した、母体血を用いた胎児 RhD 血液型出生前診断法の紹介、及び臨床応用するための取り組みについて講演した。
- 特に東アジア特有の *RHD* 遺伝子変異（DEL 型など）に対応した次世代シーケンスベースの解析法の有用性を示した。
- 国内 47 施設における RhD 陰性妊婦の周産期転帰を調査し、日本における有用性を示した。
- 現在実施中の国内 42 施設における前向き精度検証の途中経過を紹介した。

総括

本学会参加を通じ、我々の研究チームが行ってきた、母体血を用いた胎児 RhD 血液型診断法について、国際的に周知することができた。また、海外の研究者の最先端の研究を知ることができただけでなく、多くの海外研究者と情報交換をすることができた。今回の経験を今後の研究活動や臨床に活かしていきたい。



総合討論中の大須賀智子先生



プレゼン中の高橋健先生



ディナー会場前にて

(写真左より、田中守渉外委員長、現地でお会いした羽田智則先生、高橋先生、大須賀先生)